

令和7年度第2回那須烏山市総合教育会議 要点録

作成者 総合政策課 秘書政策グループ 係長 齋藤 奈緒

日付	令和7年12月25日(木)	時間	午前 9時 30分～午前 10時 15分
場所	烏山庁舎 2階 第2会議室		
出席者	別添 名簿のとおり		

表題の件について、下記のとおり会議の要点録を作成したので報告します。

1 開会

2 あいさつ

川俣市長

3 議事

(1) 教育大綱の決定及び次期教育振興ビジョン骨子案について

資料に基づき、学校教育課 齋藤課長及び菊地主幹が説明した。

【質疑応答】

網野委員) 資料5「施策体系（主な取組）」の中で、◎がついている重点項目について、事業に重要な重要でないかの違いをつける意図は。

齋藤課長) 国や県の方針に合致する事業や、本市の第三期教育振興ビジョンの成果分析結果を基に課題解決につながる事業を重点項目とした。

教育長) 第3期から第4期に移行するに当たり、施策の改定ポイントについて補足説明を願う。

菊地主幹) 資料4「3期計画との関連性」が基本施策等を整理した内容となっている。

現在、県で作成中の「次期栃木県教育振興基本計画」の内容と整合をとった。県では、基本目標は5つ。本市は、特色として地域連携を打ち出した内容を含め基本目標は6つに整理した。

教育長) 第3期から第4期で、大きく変わった施策や新設した施策は。

菊地主幹) いじめ防止対策推進法の成立や子ども主体の学びへの転換が進められている学校現場の現状を踏まえ、文科省が約12年ぶりに生徒指導提要の改訂をした。少年非行等の問題行動に加え、児童虐待や自殺、不登校などの実態、更にはインターネットに関わる問題や性的マイノリティなど性に関する課題など現実的な課題を踏まえた内容が盛り込まれた。

このような背景を踏まえつつ、教育長が日頃から話をされている命の教育、つまり、自分の命も他者の命も大切にする教育を基本目標2に大きく打ち出した。

新規項目としては、多様性に関する項目を基本目標5に取り入れた。

また、従来から行っていたが明文化されていなかった道徳教育について、あり方を整理し追記した。

坂本委員) 骨子案裏面の「第2章本市教育の成果と課題」の、次期(IV期)振興ビジョンにおける4つの柱では、一番の柱として「学びの連続性」とあるが、今回の資料5「施策体系（主な取組）」の重点項目のどこと結びつくのか。基本施策3-1に学びの連続性の確保を謳っているが重点項目がない。

また、4つの柱では「誰一人取り残さない社会」といっているが、基本目標5「誰一人取り残さない共生社会の実現」の基本施策5-1に重点項目がない。

- 菊地主幹) ご指摘のとおり。再検討する。重点項目を設定するかどうかも含めて検討する。
- 橋本委員) 基本目標5「誰一人取り残さない共生社会の実現」に付随して、国際理解について具体的な施策展開をお聞かせ願いたい。
- 菊地主幹) 教育委員会としては、これまでの取組を支援し発展させていく考え。具体的には、ALTや生涯学習課の国際交流事業など。
- 市長) 中学生海外派遣事業を行い、その実施結果を発表する場を設けたり、外国文化体験事業の一環として直近だと国際交流のクリスマス会を開催したりしている。今後の広がりを期待する。
- 齋藤課長) 本日お示したのは骨子案だが、今後作成する素案においては、具体的な施策に紐づく「取組」をお示しできる。
- 橋本委員) 塾講師という仕事柄、子どもの学力を肌で感じる立場にある。近年、英語に関して言えば、学力の差が開いていると感じる。2020年以降、小学校における英語教育が必修化された。小学校高学年から学校で英会話に触れ、中学生で本格的にアルファベットから習いだす子と、小学生の頃から何らかの英語教育を受け、ある程度の単語が書けるようになっている子とでは、明らかな差がある。基本目標5の「誰一人取り残さない」という観点からいうと、すでに取り残されている子どもが多数存在すると感じる。
- 中学英語は、いかに筆記が出来るか、ということが重要になってくる。小学校の早い段階から漢字練習のように、英語を書けるように練習させてはどうか。以前から申し上げているが、フォニックス（英語の「音」と「つづり」の規則を学ぶ方法）を取り入れてみては。
- 市長) 日本の英語教育方針が問われている問題。検討課題とさせていただく。
- 塩田委員) 基本目標6「地域とともに歩む教育の推進」について。地域によって活動が盛んなところとそうでないところの差が大きい。市全体としてどうやって盛り上げていくお考えか。また、成果はどのように評価していくのか。
- 市長) ご指摘のとおり。例えば、荒川南部では、4自治会合同で螢鑑賞やもちつきを行ったり、横枕地区では、お祭りや螢鑑賞を行ったりしている。反対に、なかなか目立った活動が見えてきていらない地区もある。子どもたちが属する地区により体験学習に差が生じるのは本意ではない。市では、こどもリレーを始めた。こどもリレーは、地区にこだわることなく任意の団体で出場できる。
- 教育長) 地域学校協働本部を各学校に移行したことによる影響もある。地域の方々の盛り上がりが素晴らしい、学校側が「そこまでやらなくても」とクールダウンさせるほど活動的な地域もある。それぞれの進め方の違いが見えてきたところ。今後は、生涯学習課でコーディネートを行っていくことで、バランスをとっていきたい。基本施策6-1の取組としてお示しできると思う。
- また、基本施策3-1、3-2の施策に紐づいてくるが、山あげや塙の天祭など、地区ごとの伝統文化もある。新しい活動、伝統的な活動、各地区の出来る範囲で実施いただく。
- 市長) 教育大綱をこれで決定してよろしいか。

――異議なし――

- 坂本委員) 人口減少が進み、時代変化のスピードが激しい。計画の進捗とは別に、急遽取り組まなければならぬ内容が発生する可能性もある。その際に、色々な機関の意見を吸い上げられる仕組みが教育分野でもあると良い。
- 齋藤課長) 今後検討していく。

(2) その他
特になし

4 その他

特になし

5 閉会

以上